

令和2年度第2回大和市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和2年7月16日(木) 14時00分～14時45分
- 2 場 所 大和市役所 5階 全員協議会室
- 3 出席者 市長 教育委員会(柿本教育長、青蔭教育長職務代理者、小松委員、前田委員、森園委員)
市職員(政策部長他6名)
- 4 傍聴人 なし
- 5 議 題 (1) 令和2年6月補正予算及び7月補正予算に係る学校教育関連事業
について
- 6 資 料 ・次第
・【資料1】学校の臨時休業中の子どもたちを取り巻く状況について
・【資料2】令和2年6月補正予算及び7月補正予算に係る学校教育関連事業
について

【会議要旨】

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議題
(1) 令和2年6月補正予算及び7月補正予算に係る学校教育関連事業について
所管部 : (資料1～資料2について説明)

教育長 : 私からは、臨時休業中の子どもたちを取り巻く状況について、延べさせていただく。

新型コロナウイルス感染症の災禍は全世界に広がり、たくさんの人々の命を奪うとともに、世界中の国を恐怖と不安に陥れた。この感染症拡大の前に、私たちが作り上げてきた現代社会も、そのもろさをさらけ出したようにも思う。

こうした緊急事態の中、子どもたちにとっての一番の被害は、長い期間の学校休業であった。友達とともに学び、そして遊ぶという、当たり前には輝くはずの一日一日が子ども達から奪われてしまった。子どもたちの命を守るために取らざるを得ない選択肢であったとはいえ、学校という、成長と学びの場を失ったことは、子どもたちに多くの影響を与えることとなった。

休業期間中の子どもたちの様子については、ただいま事務局からその概略の報告があったので、私からは省くが、子どもたちの心のケアと学習の保障を目的

に、各学校では、その方法を模索しつつ、最大限に取り組みながらも、不十分な取り組みに終わった部分もあったのではないかと総括している。

5月の緊急事態宣言の解除後、日本社会は次の局面に入った。感染症の予防対策と経済活動や社会活動を両立させることが求められるようになった。こうした中で語られるのが、新型コロナウイルス感染症によって生じた様々な社会的事象を一つの転機として捉え直すことにより、経験を次の時代に生かそうとする姿勢である。確かに新型コロナウイルス感染症の拡大が、私たち社会に甚大な負の影響をもたらしたことは事実だが、逆に、この経験を将来の可能性として捉え直そうとする視点である。

6月の分散登校を経て、現在感染防止を徹底する中での平常の学校生活が進められている今だからこそ、長い学校休業期間を振り返る中で、教育においても、今を転機として将来の教育を考えることが必要なのではないかと感じている。その意味で、今日のこの総合教育会議が、コロナを経ての次の教育を考える機会になればと願っている次第だが、私からは、学校休業期間中に感じた三つの思いについて述べたいと思う。

一つ目は、やはり教育は、子ども達一人一人に対して、しっかりと行われなければならないという、当たり前の思いを強くした。学校に学習課題を届けに来た中学生の女子が、先生の顔を見て思わず泣き出してしまったということがあった。担任が理由を尋ねると、「一人で家で頑張って勉強しているんだけど、一人ではやっぱりわからない…」と答えたそうだ。一人一人の学びを、その子にあった内容で、進めていくのが教育の基本であり、当たり前のこのことを、教育に携わる者は再度厳しく確認しなければいけないと思った。

二つ目は、共働き世帯が増える中、学校は子どもたちの居場所としての機能を果たしており、家庭も期待をしていることが改めて認識できた。大和市では関係者のご尽力で、3月の学校休業から、児童クラブを朝から開所していただいた。家庭にとっては本当に心強い存在だったと思う。児童クラブに入っていないご家庭のお子さんは、教育相談という形で事情を確認の上、学校でもお預かりしたが、3月から5月までの小中学校預かり人数は、延べで小学校1,392人、中学校850人だった。子どもたちの居場所としての機能は、今後もますます求められていくものと感じている。

三つ目は、オンラインの可能性である。各学校が作成した学習動画の視聴だけでなく、eライブラリの活用も休業期間中は格段に伸びた。こうしたことから、オンラインでの学習は子どもたちにとって受け入れられやすいものと考えられる。国もGIGAスクール構想の前倒しの方針を打ち出し、大和市においても、小学1年生から中学3年生まで、すべての子どもに一人一台、家庭への持ち帰り可能な端末を今年度中に整備する。授業での活用だけでなく、家庭でのオンライン学習や、インターネットによる調べ学習など、個人にあった学習がこれにより可能になると考えている。また、更には何らかの理由により登校できない子どもたちへのオンラインでの授業視聴や、メールによるいじめ相談などの

新しい取り組みも可能になると捉えている。

新型コロナウイルス感染症への対応を将来につながる転機ととらえ、これからも皆様のご意見を頂戴する中で、大和市の子どもたちにとって、よりよい教育を提供できるよう努力していきたいと思う。

教育委員：児童・生徒健康管理事業と新しい生活様式等対応事務について意見を申し上げる。

長期間の臨時休業によって、学校に来られなかった子どもたちのため、休業中であってもできる学習課題の提供や、再開以後にどう授業時間を確保するのか、学校経営・学級運営をどうすべきかなど、どうこの難題を乗り越えていくのか大変考えさせられた。学校が再開した今でも、まだまだ大変な状況が続いているが、それでも登校する子どもたちの元気な姿を見られるようになったことを、大変嬉しく思っている。

このような中、再開した学校でも感染症の予防対策にしっかり取り組んだ「新しい生活様式」が求められている。今回の補正予算では、飛沫感染を防止するためのパーティション、いち早く体調の変化に気づくためのサーモグラフィカメラや体温計、そして、蛇口をレバー式に変更するなど、「新しい生活様式」に対応するために、様々な配慮をしてもらっている。

この「新しい生活様式」を踏まえた子どもたちへの指導が大切になるが、その前提として、教職員たちにはこの新しい課題への理解と取り組みが求められることになる。教育委員会としても、今回の補正予算で整備した環境をしっかりと活用し、子どもたちが安心して学ぶことができ、保護者の方々が安心して送り出せる学校になるよう、学校と連携して取り組んでいきたいと考えている。

教育委員：教育用コンピュータ整備事業について意見をさせていただく。

今回の臨時休業では、もちろん学習面の遅れについても大きな課題だが、この期間、子どもたちの精神状態がどうなっているのか、大変気になっていた。先ほど報告されたアンケートでは、幸いにもストレスを強く感じている子どもたちは、少数とのことだが、それでも生活の乱れや不安を感じている子どもたちが居ることが良く分かった。

私も、教育では一人一人に目を向けるという当たり前のことが大切だと、改めて感じた。そして、このコロナ時代を踏まえた今では、「新しい生活様式」にあった学校であることはもちろん、新しい教育のあり方が問われるようになるとも感じる。

今回の補正予算では、これから高校への進学を控えていて、大きな不安を感じている中学3年生の教室にプロジェクタを整備してもらえることになった。当初は来年度の整備を目指していたものだが、前倒しで対応してもらえたことについて、学校現場では大変感謝していると思う。これで、大和市の全小中学校にプロジェクタや電子黒板を整備できたことになる。

今回、G I G Aスクール構想を踏まえた補正予算が追加されたところだが、「オンラインの可能性」という新しい教育のあり方を考えたときに、このプロジェクトの整備も大きな助けになるものと考えている。教育委員会としては、今回の補正予算で整備した環境を活用した授業ができるよう、しっかり取り組んでいきたいと思う。

教育委員：G I G Aスクール端末整備事業と小・中学校G I G Aスクールネットワーク整備事業について意見を申し上げる。

今回のような事態に、ある先生は、家庭内で本当に学校に行かせていいのかと疑問を持ったときに、学校は何を答えたらいいのだろうと思ったそうだ。今回の新型コロナウイルス問題という、未曾有の災害で、今までの学校の在り方というのは大きく変わってくる、変わらざるを得ないのだろうと私も考えているところである。

このような状況でも、学習はしっかりと提供していかなければいけない。先ほどのアンケートでは、様々な取り組みを行ったが、やはり学習の量が十分だったとは言えない結果だったと私も思う。国のG I G Aスクール構想を受けて、今回、本当に大変な額の補正予算が追加された。改めて感謝申し上げる。

I C T環境を整えて、子どもたちそれぞれに寄り添った教育を進めていくことは、大和市でも学校教育基本計画で重点施策としているところであるが、今回の補正予算で、我々が想定していたより、遥かに早いスピードで前進することになる。

これだけの環境を設けるからには、我々はそれをしっかり活用できるよう、取り組んでいく責任がある。これからの学校の在り方はどうあるべきなのか、新しい教育環境とはどうあるべきかを考えていかななくてはならない。教育委員会としては、この新しい環境を早急に整備するとともに、その活用をしっかりと検討していく。

教育委員：学校給食管理運営事業について、意見させていただく。

この臨時休業期間は、子どもたちだけでなく、ご家庭の皆様も日々の生活の中で新型コロナウイルス感染症対策に追われていたことと思う。共働き世帯が増えている中、学校は臨時休業になる一方、親は仕事を休めないという問題が出ていた。

このような中でも、大和市では、学校での預かりに加えて、多くの方々のご尽力と迅速な対応で、児童クラブを朝から開所してもらえたことから、子どもたちの居場所を第一に考え、共働き世帯の方々の期待に応えた対応ができたと感じている。これもひとえに、このような社会状況の中でも児童クラブで働いていただいた皆様のおかげである。教育委員会として厚く感謝申し上げる。

そして、休業期間中には、学校の再開とともに学校給食の再開を求める保護者の声がたくさん届いていたと聞いている。今回の臨時休業は、学校給食の大切

さ、有難さと、多くの方々の力で学校給食が成り立っていることを改めて感じる機会にもなった。

今回の補正予算によって、給食の食材をご提供いただいている事業者の皆様は、給食がなくなったことによるキャンセル料を支払うことができることに、ほっとしている。今年は夏休みが短くなり、通常ならば給食がない暑い時期にも、給食を提供することとなる。このような状況であっても、安全で安心な美味しい給食を子どもたちに届けられるよう、しっかり取り組んでいく。

教育委員：この度の新型コロナウイルス感染症の影響で、世界中がこれまでにない危機を迎え、未だその危機の中にある。学校はなんとか再開できたが、その危機の中で、子どもたちが心から安心して学べるにはどうすべきなのか、そのために今回の補正予算をいただいたものと考えており、その重責を強く感じているところである。そして、このような中で子どもたちへの教育はどうあるべきか、学校はどうあるべきか、その道筋を示すのが教育に携わる私たちの大きな責務と考えている。

教育に携わる者は、市内の子どもたちのため、何が成し得ることなのか、しっかり考え、応えていかなければならない。教育委員会としても、この大きな責任を果たすべく、今回の補正予算をしっかり活用して、それぞれの事業に取り組んでいく。

市長：3ヶ月の臨時休業期間を経て様々な課題が見えてきた。今回の補正予算で私が特に大きく期待を寄せているのが、GIGAスクール構想の実現に向けたパソコン端末の児童・生徒1人1台体制の整備による様々な効果である。あらゆる状況下においても、子どもたちの学習機会を確実に確保できるよう、当初予定していた整備計画を大幅に前倒し、これまでにない大型の補正予算を組んだ。こうした環境を整備し、オンラインによる学習環境を実現することにより、臨時休業期間中の学習はもとより、普段の授業や家庭学習においても子どもたち一人ひとりの状況に応じた学習を進められるなど、今後様々な場面での活用が見込まれ、特にいじめ・不登校対策などとしての可能性も秘めていると考えている。

次回の総合教育会議においては、オンライン授業の活用などに関して子どもたちの新しい学びをどのように広げていけるのか、ビジョンや具体的な取り組みを聞かせていただきたいと思う。

我が国全体の状況に目を向けると、新型コロナウイルス感染症の拡大により、Web会議や在宅勤務が一気に進み、新しい働き方が求められるようになるなど、社会が大きく様変わりした。教育現場においても、この情勢の変化とともに、これまでに経験のない局面を迎えていることと思う。まさに、我が国の歴史が始まって以来の大きな教育の変化が始まろうとしている。このような大きな変化に対してどのように対応していくのか、これはおそらくここにいる教育

委員の方々あるいは大和市の歴史、日本の歴史上ない経験ではないかと思う。教育委員会の皆様においては、オンライン授業をはじめとした新しい形による教育にも是非積極的に取り組んで欲しいと願っている。私もそのために必要な環境の整備などについては、全力で支援していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

4 その他

5 閉会